

1986年 東北大学卒 伊藤条太

東北大卒の伊藤条太と申します。月刊誌「卓球王国」やYahoo!ニュースなどで卓球関係の記事を書いております。

私は国公立大学OB・OG卓球大会どころか、現役時代に国公立大学大会に出たことすらないため、あまり他大学の方々と交流がない立場ではありますが、卓球コラムニストという珍しい仕事をしておりますので、多少は興味を持っていただけるのではないかと思います、大学卓球部との関わりを書いてみたいと思います。

入学当初、私は卓球同好会に入っていたのですが、ある大会であまりにも不甲斐ない負け方をしたのが情けなくなり、3年の春に学友会卓球部に入りました。しかしその情熱も長くは続かず、大会にも数えるほどしか出ませんでした。

後年、東大卓球部OBで同学年の大河さんという方と出会い、話してみると3年のときに九州大学であった七大学定期戦に2人とも出ていたことがわかったのですが、お互いに有名選手ではなかったためにまったく見覚えがないという悲哀を味わいました。

このように熱心な卓球部員ではありませんでしたが、卓球に関してふざけることは好きだったので、大学院時代には戸田（現・アバロックスジャパン社長）という後輩と「卓球レポート」のパロディ小冊子や、日本卓球協会が作った教則ビデオのパロディビデオ作品といった、どこにもニーズがないものを作っては卓球メーカーに送りつけるといった痛々しい活動をしておりました。

そんなことが仕事になるとは到底思えませんでしたので、大学院修了後は大人しく家電メーカーに就職し、卓球本を集めて憂さ晴らしをしておりました。しかし何が幸いするかわかりません。その卓球本収集がきっかけで、「卓球王国」でそれらを紹介する連載をすることになったのです。2003年のことでした。以来、意識の上では会社員は仮の姿であり、卓球コラムニストが本業と思いながら務めておりましたので、出世しなかったのも当然と言えます。

その後、ある程度の貯金ができたので、2017年末に53歳で早期退職し、ボランティアで近所の小中学生の卓球指導をしながら書きたい原稿だけを書き、貯金が減っていくのを眺めております。

「国公立大卒の卓球人は、過度に卓球に入れ込む人が多い気がする」と誰かが評したのを聞いたことがありますが、自分の知力・能力の社会への還元はほどほどにし、もっぱら自分の「卓球欲」に注ぎ込んでしまう人々のなせる業だと思います。私もその典型と言えましょう。お心当たりの読者も多いのではないかと推察します。

スポーツ専門以外の大学の目的を考えると本末転倒と言わざるを得ませんが、それほど卓球は面白いのだから仕方ありません。それが許されるうちはどこまで味わい尽くしたいと思います。

最近では卓球の歴史を絡めたトークライブや講演会も行っております。目から鱗の奇天烈卓球史を語り尽くしますので、ご興味がおありの方は、itojota@df7.so-net.ne.jp までご連絡ください。お持ちしております。